

“いのち”のプロジェクト

次回開催：令和2年2月8日(土) 第3回“いのち”の『わ』～みんなで話そう～

“いのち”のプロジェクトの始まりは、《平成28年11月》の市P協と行政との懇談会にて「子供たちを守るために私たち大人ができること」という文書が発信されたことに遡る。《平成29年1月》の教育委員と“いのち”というテーマで初めてグループ討議形式での懇談を経て、《平成29年2月》に米田教育長から市P協へ1通のメールが届く。「一歩進めたいと思います。市P協・学校・教育委員会でチームができたらと思います。」プロジェクトの募集をかけ、保護者も幅広く参加する仕組みを整え、《平成29年5月》に第1回目の会合がスタート。“いのち”と表現し、プロジェクトの方向性は、生きる喜び・つらさを救う発信、子供たちから学び、学校・地域・街中に広がる仕掛けをしていくことを確認した。定例の話し合いの他、子供たちの主体性を大切に“いのち”の対話の機会として、年に一度【“いのち”のわ】を主催し、まずは大人と中学生、次に中学生と小学生と“いのち”の対話を深化発展させてきている。今後も「子供たちの感性を真ん中に子供たちと共に知恵を出し合いながら 多様な感性を認め そこから生まれたものを大事にしながら」日野市の大人と子供が共にできることを考え“いのち”のプロジェクトを全市的に進めていく。

いのちってどんなもの？

と聞かれたら、あなたは何て答えますか？

もっとも多い答えは、「とても大切なもの」、
「なくてはならないもの」ではないでしょうか。「やりたい事をやるために必要なもの」、「生きている証」、
「楽しいと感ずること」、「辛いと感ずること」。自分が
楽しい！と感ずることは、必ずしも他者が楽しいとは
限らない。とても辛かったけど、乗り越えられた大きな
壁は、必ずしも他者が乗り越えられるとは限らない。
それが個性。なんでそんな風に考えるの？
ではなく、私には思いつかない新たな発想！
何故、そう考えたの？と他者を認め・理解
し合うことができれば、たくさんの方が
気持ちよく生きていけると思う。

そんなことを考えている中、
中学生から「地域の人と
つながりたい」、

「“いのち”について話してみ

たい」という声をきっかけに、

平成31年2月に第1回“いのち”
の「わ」を開催。“いのち”の「わ」は、わ、

和、輪、環、話、我、吾とたくさんの「わ」が集
まった。参加者の中学生から「今度は小学生と
話してみたい」、「生徒会以外の人達にも参加して
ほしい」という声で、第2回 “いのち”の「わ」は、
小学生に「わ」が広がった。この活動を通じて、
相手の話に耳を傾け、なんで・・・ではなく、何故そ
う感ずたのか相手に興味を持つことで、多様性を
認め合い、日野市の小さな“いのち”の「わ」が
大きな「わ」となり、世界に広がる「わ」になって
ほしい。第3回 “いのち”の「わ」は、令和
2年2月8日(土)開催予定。

ご興味のある方は、ぜひ、
ご参加ください！

“いのち”のプロジェクト
神田 公垂



「いのちの『わ』～みんなで話そう～に参加して」

潤徳小学校 岩下 太郎

参加する前「自殺とかイジメのこととかを話し合おうかな」と思っていたのですが、実際に行ってみると、人種差別や災害のことなど幅広い範囲で話し合っていて、僕はいつも二～三個ぐらいしか意見が言えなかったのに、この日は七個と積極的に意見を言えました。他のグループの発表を聞いてみてイジメや自殺や人種差別などが世界で実際に起こっているのだなと実感しました。実際に参加してみて、一グループずつがきちんと意見を言えてよかったと思いました。



「当たり前を考えて」

三沢中学校 仲林 まりな

私は最初、テーマが「いのちのわ」だったので、厳しく重い雰囲気のものかと思っていました。しかし、実際は明るい雰囲気です。小学生から大人の方まで色々な人と、様々な方面から考えて話しあえる、とても良い会でした。全員同じテーマで「命のわを広げるために自分たちにできることは何か」を考える場面では、それぞれが色々な立場・経験から本当に多種多様な意見を出し合いました。そして、お互いに意見を指摘したり、質問したりと相手の意見について考えているうちに、自分の考えがどんどん深まっていくことを感じました。また、班ごとに話し合ったことを発表すると、いじめや自殺について考える班もあれば、差別について考える班があるなど、さらに色々な種類で沢山の考えがあり、「命のわという、同じテーマで始まっても、全く違う考えがこんなにあるのか!」と驚きました。「命は大切」ということは当たり前です。この会ではさらに、「何故大切なのか」「大切にすると具体的などういうことなのか」など考えていき、私は最初、なかなか上手く答えることはできませんでした。それは、「命は大切」ということに対して漠然としたイメージしかもっていなかったからだと思います。沢山考えて、この会が終わった後には、完璧ではなくても自分なりにしっかりと答えることができるようになりました。約三時間ほどのごく短い時間でしたが、沢山の驚き・発見に出会うことができ、本当に参加して良かったと思います。また、さきに書いたように、参加者が多いほど考えが深まり意見が出ます。だから、もし、まだ参加したことがないという方はぜひ、一度参加してほしいと思っています。

あしあと

平成28年

- 1 1月 市P協行政懇談会にて「子供たちを守るために私たち大人ができること」
- 1 2月 教育委員会から全家庭へ「ひのっ子のみなさんへ」配布

平成29年

- 1月 市P協と教育委員との懇談会 テーマ「いのち」
- 2月 教育長から提案
「市P協・学校・教育委員会でチームを組む」
- 3月 市P協「いのち」のプロジェクトメンバー募集
- 5月 第1回「いのち」のプロジェクト 会合
- 1 0月 市P協PTA研修会「今、私たち大人ができることを考える」

平成30年

- 1月 市P協と教育委員との懇談会
「大人と子供と一緒にできること」
- 2月 「いのちのわ ～みんなで話そう～」開催
中学生と保護者の対話
- 6月 市P協総会 基本方針に、教育委員会・
校長会と共に「いのち」の取組の推進を明記
- 9月 第13回「いのち」のプロジェクト
「子供を真ん中に」

平成31年

- 2月 「いのちのわ ～みんなで話そう～」開催
中学生と保護者と小学生で対話